

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【第二次世界大戦の始まり（ユダヤ人差別）】	第二次世界大戦におけるドイツの占領政策は過酷なものであり、反抗する者を弾圧したり、物資を力ずくで取り上げたり、占領地の住民を本国に強制的に連れて行って、工場などで厳しい仕事に従事させたりしたことをおさえる。また、教科書掲載資料の「アンネの日記」や「命のビザ」を基に、占領政策においてユダヤ人が徹底的に差別され、アウシュビッツなど各地の強制収容所に送られて労働させられたこと、多くの命が強制収容所で失われたことへの理解を深めさせる。
	成果 人類が引き起こした民族差別に対する理解を深めた。「命のビザ」を通して、差別され迫害されるユダヤ人を助けるために、杉原千蔵やシンドラなど人道的な行為を選択した勇敢な人物が多数いたことを知り、人権尊重を貫く意思の尊さや大切さを再確認することができた。
	課題 人権について詳しく学習するのは公民の教科書であることから、この時点では未履修であることを踏まえて、ユダヤ人に対する民族差別を分かりやすく教材化する必要がある。ヨーロッパなど国外における出来事だと身近ではないものとして受け止める生徒がいるのでより自分事として実感できるような年齢の近いアンネ・フランクの書いた日記の詳細を追加の資料として準備したい。
2 実践2 【いじめ撲滅絆プロジェクト】	久慈中学校には、いじめをなくすためのプロジェクトが伝統的に受け継がれている。この組織は、生徒会が中心となって、各クラスの学級委員を含めたメンバーで構成されている。プロジェクトでは、各クラスで話し合いをもち、「いじめ撲滅絆スローガン」を決定し、掲示物を作成した。5月の生徒総会では、「いじめ撲滅宣言」として、スローガンに込められた思いを発表した。さらに、11月の文化祭では、各クラスのスローガンに対する現状と内容の再確認を行い、クラスの課題や今後の展望を発表した。これは、生徒がいじめについて考え、自治的能力を育み、主体的に取り組むプロジェクトである。
	成果 いじめ撲滅委員が中心となって、学級全体でいじめ撲滅絆スローガンについて話合ったことで、いじめは許さないという意識を高めることができた。また、全校生徒が揃う生徒総会の場で、クラスごとにスローガンに込められた思いを発表したことで、学校全体でいじめを許さないという雰囲気ができた。
	課題 統合により形は変わるかもしれないが、いじめ撲滅のために学級や学年、学校全体で新たに取り組めることをいじめ撲滅絆プロジェクトの次の段階として模索していきたい。